

6・29 AWC京都集会 戦争・原発・生活破壊進める 岸田政権と対決しよう



集会後、京都の繁華街に向けたデモ行進が取り組まれた (6月29日 京都)

アジア共同行動・京都は六月二十九日、戦争・原発・生活破壊を進める岸田政権との対決を！ アジア民衆との国際連帯を掲げよう！ 冒険、沖縄での米兵による6・29 AWC京都集会」を京都市内で開催した。主催者あいさつを行ったアジア共同行動・京都代表

が繰り替えされていること、UKIUSと韓国(および日本)の軍事協力などの動きが朝鮮半島情勢の緊張をますます高める状況が報告された。また、原発の運転再開延長や小型モジュール原発の建設策動など、尹錫錫政権の原発政策および韓国の反尹錫錫政権の民衆の闘いも簡潔に報告された。その後、フィリピン、メキシコ、韓国、オーストラリア、インドネシアの支援、連帯の呼びかけ、若狭の原発を考慮する会、連帯行動組、西三河支部、AWCユースからのアピールが行われた。集会決議を採択した後、参加者は会場から京都の繁華街に向けたデモ行進を行って、その日の行動を締めくくった。

一面から
DICAS粉砕！
日米両政府の防衛当局者が六月九日、日米防衛定期協力を取り、維持整備定期協議(DICAS)の第一回会合を開催した。翌二〇日には、この日米防衛当局者と防衛関連企業との意見交換も行っている。

DICASの目的は、米軍にとっては日本を兵站拠点として、アジア・太平洋地域での軍事展開を維持・強化することにある。夏も米軍と自衛隊との合同訓練が目白押しである。七月二十八日から二六日の間に、海上自衛隊と米陸軍の共同軍事訓練「オリエンタル」が行われる。

この六月月間には、辺野古の代執行が進行され、大浦湾埋立てが始まり、沖繩県議選が行われ、田原首相自身が六月三日には沖繩を訪問しているのだ。また、エミニュル駐日大使は五月に与那国島と石垣島を訪問して、和機橋において、反対運動の参加者と警備員がタンブトラックに轢かれ、警備員が死亡し、反対運動参加者が重傷を負ったという事故が発生している。

この六月月間には、辺野古の代執行が進行され、大浦湾埋立てが始まり、沖繩県議選が行われ、田原首相自身が六月三日には沖繩を訪問しているのだ。また、エミニュル駐日大使は五月に与那国島と石垣島を訪問して、和機橋において、反対運動の参加者と警備員がタンブトラックに轢かれ、警備員が死亡し、反対運動参加者が重傷を負ったという事故が発生している。

ウクライナ侵略戦争、イスラエルのガザ虐殺戦争が、この戦争をやめさせなければならぬ。原爆と核兵器を保有する国が、戦争を続けているのだから、戦争をやめさせなければならぬ。

AWC首都圏集会

戦争・改憲の岸田政権打倒 アジアから米軍総撤収

六月三〇日午後、渋谷区動労福祉会館において「戦争・改憲に突き進む岸田政権を打倒しよう！ アジア人民とともに米軍を総撤収しよう！ 6・30首都圏集会」が開催された。はじめにAWC韓国委員の方を講師に、「朝鮮半島をめぐる情勢と動向」と題したパワーポイントを使った講演が行われた。

講演の内容は、朝鮮半島の軍事的動向を中心としたものであった。米帝・ハイテンの尹錫錫政権の動向は、共産主義人民共和国(以下、共和国)の軍事包圍網をつくり出すものだ」と批判した。

さらに、ゲスト講師が韓国版NATO構築が進んでいる韓国では右派新韓院ユン・ソンニョル政権が、米帝と一体となって米韓、日米韓などの合同軍事演習を連続的かつ大規模に強行していることが明らかにされた。尹錫錫は「力による平和を基調にして、韓国独自の核武装の必要性にも言及しつつ、先制攻撃戦略への転換をはかっていることを批判した。また、これら「戦争に協力しない！ 練馬アクション」の池田五津さんは、主に「日本の軍拡の現状」について講演した。池田さんは、

ロシアによるウクライナ侵略戦争を契機として急速に推し進められる日本の大軍拡、戦争国家化(「国家改造」)の現状について、さまざまな角度から暴露した。と部統合作戦司令部創設

「戦争に協力しない！ 練馬アクション」の池田五津さんは、主に「日本の軍拡の現状」について講演した。池田さんは、ロシアによるウクライナ侵略戦争を契機として急速に推し進められる日本の大軍拡、戦争国家化(「国家改造」)の現状について、さまざまな角度から暴露した。と部統合作戦司令部創設

「戦争に協力しない！ 練馬アクション」の池田五津さんは、主に「日本の軍拡の現状」について講演した。池田さんは、ロシアによるウクライナ侵略戦争を契機として急速に推し進められる日本の大軍拡、戦争国家化(「国家改造」)の現状について、さまざまな角度から暴露した。と部統合作戦司令部創設

「戦争に協力しない！ 練馬アクション」の池田五津さんは、主に「日本の軍拡の現状」について講演した。池田さんは、ロシアによるウクライナ侵略戦争を契機として急速に推し進められる日本の大軍拡、戦争国家化(「国家改造」)の現状について、さまざまな角度から暴露した。と部統合作戦司令部創設



反帝国際連帯と岸田政権打倒を訴えた (6月30日 東京)

今夏反戦闘争、反基地闘争 被爆者解放闘争に立ち上げられ

阻止しなければならぬ。辺野古新基地建設を巡っては、辺野古への埋め立て土砂を海上搬送している安和機橋において、反対運動の参加者と警備員がタンブトラックに轢かれ、警備員が死亡し、反対運動参加者が重傷を負ったという事故が発生している。

また、奄美、沖縄、宮古島、与那国、石垣島の自衛隊ミサイル基地化が進められてきている。琉球弧の軍事要塞化、戦場化の動きをつかみ、ミサイルの生産を止めようとする。

さらに、日本版CIAである「能動的サイバー防衛」関連法が次期臨時国会で上程されようとしており、これを阻止していくことを呼びかけた。

このような基地建設軍の必要化が進む中で、昨年一月二四日、在米空軍兵士が、一六歳未満の少女を誘拐した事件を引き起こした。怒りをこめて弾劾しよう！

AWC九州・山口集会 反原発、反戦の講演と質疑 7・6 北九州 日韓間の連帯を深めた

開会前には、韓国からの入っていることだ。ゲストと、AWC会員たち。また、日米韓三国にフリーピンをまわす加えつつ、大規模な軍事演習が繰り返される形での対共和国や対中国の「包囲網」づくりが策される結果、東アジアの軍事緊張が高まっていることが話された。韓国民衆の中で、朝鮮戦争の経験からも「戦争はやってはいけない」という根強い思いがありつつ、放射性廃棄物特別法案の廃案を求めていることである。この水準にまでは隔たりがありつつも、十分射撃に



講演と多くの質疑で、日韓間の連帯が深まった (7月6日 北九州)

「戦争マニア」尹政権を追いつめる。毎週のデモと月一回のソウル集中行動の様子が、迫力のある写真で報告された。かつて朴種憲(ハクソン)政権を打倒した折の水準にまでは隔たりがありつつも、十分射撃に

反帝民族解放、社会主義を掲げて ILPPSが第七回国際総会を開催

国際民衆闘争同盟(ILPPS)は六月二日から五日に、マレーシアで第七回国際総会を開催した。総会のテーマは、「帝国主義を打倒しよう! 社会主義の未来を勝ち取る! 帝国主義の収奪、戦争、ファシズムと闘う人民の統戦線を構築しよう! 人類と地球のための社会主義の未来を勝ち取る闘い」で、より多くの組織と運動をILPPSに引き入れよう!」であった。

過去最大の結集

二〇〇一年に発足した国際民衆闘争同盟(ILPPS)は、結果する世界最大の反帝統戦の結集として発展している。米、南米、中東、アフリカ、北一戦線として発展している。ヨーロッパなど大陸を跨いで、G7サミット、NATO、反帝闘争と民族解放・O首脳会議、WTO、APPAの第七回国際総会には、

国際部

前回総会大きく上回る過去最大の五三五人が世界各地から参加した。それは、ILPPSの組織的活力、現在の国際情勢のなかでILPPSが掲げる反帝闘争と民族解放・民主主義という大義の正当性と必要性を示すものである。日本からはア

パレスチナへの連帯

反帝闘争と民族解放の最大の政治的焦点は、現在パレスチナへの連帯。ILPPSのシオニスト・イスラエリ政府による民衆大虐殺と

二面から

よび人道に対する罪を裁くかけている。国際民衆法廷の開催を呼びかけている。韓国・朝鮮人への差別煽動が掲載版を利用する形で頻発していることについて、その事例を写真で示しながら弾劾した。最後に、司会から6・30 AWCC首都圏集会アビーLWCが読み上げられた。全体的に拍手をもって確認された。AWCC首都圏の仲間から

よび人道に対する罪を裁くかけている。国際民衆法廷の開催を呼びかけている。韓国・朝鮮人への差別煽動が掲載版を利用する形で頻発していることについて、その事例を写真で示しながら弾劾した。最後に、司会から6・30 AWCC首都圏集会アビーLWCが読み上げられた。全体的に拍手をもって確認された。AWCC首都圏の仲間から



マレーシアで開催された第7回国際総会

対峙するパレスチナ人民の闘いが何度も繰り返された。抵抗闘争への断固たる連帯を示すことになった。パレスチナ人の参加者が紹介して招かれたのは、パレスチナ解放人民戦線(PDF)のメンバーで、パレスチナ民族評議会(PNC)議員スナナは解放される「この

様々な分野の闘いを報告

総会では、様々な分野での報告のなかで、クルド人の報告や討議が全体会と分科会で行われた。そのなかで、「反帝闘争と民族解放」の報告が、多様な反帝闘争の報告を通しての「包囲網」の展開が、平和と公正な長期にわたる闘いに触れる報告では、ベルギーの反政府に対する闘いの前進に向けて最も広い団結と協力を築くことの必要性を訴えた。

「社会経済的発展と社会正義」というテーマでは、ユージランドとフィリピン、女性、移民、先住民、セクシュアル・マイノリティなどの分科会がもたれ、ラテンアメリカや南アジアなど労働組合の国際連帯、移住労働者の国際的団結の前進に向けた闘いの重要性を指摘した。開催地のマレーシアに関しては、サブ

反帝国際連帯の前進を

総会では、様々な分野での報告のなかで、クルド人の報告や討議が全体会と分科会で行われた。そのなかで、「反帝闘争と民族解放」の報告が、多様な反帝闘争の報告を通しての「包囲網」の展開が、平和と公正な長期にわたる闘いに触れる報告では、ベルギーの反政府に対する闘いの前進に向けて最も広い団結と協力を築くことの必要性を訴えた。

「敵基地攻撃能力」強化を絶対に許すな 祝園弾薬庫増設反対の闘いを進めよう

関西地方委員会

岸田政権は、二〇二三年二月に「安保三文書」を改定し、自衛隊が「敵基地攻撃能力」を持ち、「継続能力」を高めるといふ方針を明確に打ち出し、「戦争する国」づくりの具体的な準備を進めている。

つづいて、他国（「敵国」）の奥深くにまで届く長射程ミサイルなどで先制攻撃をしかけ、さらに長期にわたって戦争を続ける態勢を作り上げようとしている。

こうした政策の最前線のひとつが、京都府南部にある陸上自衛隊祝園分屯地だ。弾薬庫を増設することは発表したが、それ以外の情報はほとんど隠したまま計画を進めている。こうする防衛省に対して、周辺住民たちは戦争準備に反対するためのネットワークを結成するなどして闘いを始めてきた。この闘いを推進するとともに、岸田政権の戦争政策を断固阻止する闘いに立ち上がる。

関西地方委員会は、この分屯地が初めて海上自衛隊と協同運用されることにも注目している。

また、この分屯地が初めて海上自衛隊と協同運用されることにも注目している。

祝園弾薬庫の概要

継続能力強化のため 弾薬庫大増強

継続能力の強化のために、弾薬庫の増設が求められている。陸上自衛隊祝園分屯地には、大量のミサイルや弾薬の保有が必要となり、当然保蔵庫（その分屯地）の整備、貯蔵庫の整備、増強が求められる。祝園分屯地には、八棟の建物が計画されている。

防衛省は当初、「スタンダード・オブ・ミサイルを保管するかどうかは未定」として、射程を従来の二〇〇キロメートルから二〇〇キロメートル以上に延ばした陸自の「二式」地对艦誘導ミサイル能力向上型の保管を想定している。海自との協同運用という場合は、京都府舞鶴市の海上自衛隊基地に配備されているイージス艦に搭載する巡航ミサイル「トマホーク」(射程二六〇キロメートル)もここに保管されることと見られる。

面積四七〇ヘクタール（東京ドーム約一〇〇個分）、本州最大規模の弾薬庫施設である現在の祝園分屯地は、日中戦争のなか、一九四〇年に大阪陸軍祝園支処として開設された。戦前の三九年、大阪府枚方市の禁野(せんや)火薬庫で大火発火事故が発生したため、その代替施設として、祝園分屯地に移転してきたという経緯がある。



京都・祝園ミサイル弾薬庫問題を考える住民ネットワークの大学学習会に住民ら300人が結集 (5月11日 京都府精華町)

東京 米軍横田基地反対訴え 集会・デモを闘い抜く

六月二十日、東京の横田基地に反対する集会とデモが、米軍基地に反対する実行委員会主催で開催された。

横田基地近くの福生公園に集まった約二千人は、米軍基地反対の訴えを述べ、横田基地の反対闘争を闘い抜くことを誓った。

六月二十日、東京の横田基地に反対する集会とデモが、米軍基地に反対する実行委員会主催で開催された。横田基地近くの福生公園に集まった約二千人は、米軍基地反対の訴えを述べ、横田基地の反対闘争を闘い抜くことを誓った。

横田基地反対の訴えを述べ、横田基地の反対闘争を闘い抜くことを誓った。



デモの途中で、空白、米空軍に要請行動が行われた (6月22日 東京都福生市)

危険にさらされる 住民たち

田畑に囲まれた広大な丘陵地帯の中に、弾薬庫は造られた。移動してきた当時の川西村(今の精華町)は人口も少なかったが、現在ではこの周辺一帯が「関西文化芸術研究都市」となっている。分屯地のすぐ近くにまで住宅街が広がり、大学や企業の研究施設、国会図書館などがある。そして精華町には大阪府、奈良県と接する場所にも位置している。自衛隊が敵基地攻撃能力を持ち、そのための長距離ミサイルが保管されるようになれば、戦時にはそこが第一の攻撃目標となることは明らかだ。精華町や京田辺市だけでなく、周辺地域の多くの住民が危険にさらされることになる。

過去の「確認書」を 反故にしようとする防衛省

かつて、弾薬庫が米軍から自衛隊に移管されたこと、地元青年団や軍事基地反対、地元委員会などが、自衛隊の使用に反対し、土地を返還せよという大きな闘いが展開された。

全国的反戦・反基地闘争と 結合した闘いを

自らの生命と生活を守るための住民の要請に対する防衛庁の回答を記録し、自治体・行政機関の長が合意した。

闘争日程

- 〇沖繩県民大会
 - 日時 6月10日(土) 15時~16時
 - 場所 ニコエからドーム公園
- 〇沖繩は怒っているぞ
 - 日時 8月10日(土) 14時30分開会 16時40分まで
 - 場所 文京区民センター1-2-A
- 〇米軍基地反対の訴え
 - 日時 8月10日(土) 14時30分開会 16時40分まで
 - 場所 文京区民センター1-2-A